

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援アイリー（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月 3日 ～ 令和 7年 2月 14日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月 17日 ～ 令和 7年 2月 21日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 2月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムが固定化しないように工夫している	こどもの興味関心に沿った活動提供と季節を感じられる活動など、こどもの主体性や対話を大切に活動提供をする中で、豊富な経験や深い学びにつなげられています。	本人支援における支援プログラムを放課後等デイサービスガイドラインに定められている4つの基本活動に分けて見える化することで、より計画的に幅広い経験や深い学びの場が提供できるようにしていきたいです。
2	保護者と話ができる機会を作っている	送迎時に対面で話す場や定期的な個人面談を行う中で情報共有を図っています。	保護者が話をしやすい時間帯や参加しやすい機会の設定を心がけていく。
3	専門性の高いサービスの提供ができています	言語聴覚士が常駐している為、発達面を医学的に捉え、エビデンスに基づく支援ができるようにしています。	引き続き言語聴覚士の助言も含め、今後は作業療法士などの専門職からのアドバイスが貰えるような仕組みを構築していきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされている。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされている	保護者同士の交流する機会が少ない	定期的に保護者の方に事業内容や活動内容、こどもたちの成長を伝えられるような機会や保護者同士の交流の機会を継続して設けていきたい
2	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている	マニュアルを保護者に周知・説明する機会を設けていない	定期的にマニュアルの見直し・改訂を継続していきたい
3	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われている	訓練の実施について見える化が不十分である	訓練でのこどもたちの様子や課題や対応策などの気づきをその都度保護者に見える化し、共有していきたい